

としょぶらり

米子高専図書館報

ISSN 1344 - 5634

第102号

平成29年2月13日 発行
米子工業高等専門学校図書館

「人間力」を 身につけるための リベラルアーツ

校長 氷室 昭三

グローバルビジネスを展開する企業においては、相手の文化や思想などを理解し、その違いからくる認識の差異を把握するだけでなく、自国の文化について説明でき、教養豊かな会話を展開できることが必要な時代になっています。

したがって、企業が求める人材像の要素に自主性、積極性、進取の精神、柔軟な発想と深い考察力、コミュニケーション力、国際的な視野と多様性の受容などがあります。特に、学生時代に若者が身につけておくことが望ましい資質としては、外国語能力（特に英語力）、物事を考察する際の基礎となる思考力、それを支える深い教養、多様な知識や経験などが挙げられます。これらを考慮すると、これから社会に出る学生諸君にとって国際化対応能力を含めたリベラルアーツ（教養）教育の充実が極めて重要なのです。

みなさんがリベラルアーツを学ぶことで、「人間観」、「歴史観」、「世界観」、「倫理観」などを切り口に賢者の知識や思考法に触れ、社会人としての視野をより拡大するとともに、物事に対する判断力や精神的豊かさを醸成してほしいと思っています。

現在、日本社会では多くの人が多忙な日々を過ごすなかで「何のために生きているのか」といった自分の存在意義を見失った人が多いとされています。一方、想定外の事象についても臨機応変に対応できるだけの力量、その事象を素直に自分の内面に吸収することのできる心の幅と深さ、つまり「人間力」なくしては社会で生きていくことは難しくなっていることを認識する必要もあります。

そもそもこの「人間力」とは、本来すべての人に備わっているものですが、従来の専門教育だけで育つ類のものではありません。それは、さまざまな真理を追究したり、物事の本質を見抜くトレーニングを重ねたりして磨かれるものです。したがって、みなさんは、専門だけではなく、「人間力」の基礎となる感性を磨きあげるリベラルアーツもきちんと身につけておきましょう。そのための第一歩はたくさんの本を読むことです。図書館にはリベラルアーツのコーナーが設けてありますので、ぜひ利用してください。あなたの可能性が大きく広がっていくと思います。

目次

「人間力」を身につけるためのリベラルアーツ	1
2016年度校内読書感想文コンクール優秀作品発表	2
2016年度校内読書感想文コンクール表彰者について(記念撮影、審査結果)	5
2016年度校内読書感想文コンクールの概要と総評	5
2016年度図書館研修会報告	6
学生のクエストにより購入した図書一覧(2016年度分)	7
2016年度第2回高専祭講演会	
「世界に広げる『おもてなし』の心とスキル」～エンジニアに必要な国際的視野と教養～	8
高専数学教育シンポジウム 報告	9
短期留学・インターンシップ報告会について	9
2016年度第3回、第4回<ビブリオバトル>結果報告	10
読書会を開催して	10
2016年度米子高専文化セミナー報告	10

最優秀賞

「すべてがFになる」を読んで

電子制御工学科 1年 陶山 一宇

「今は夏。彼女はそれを思い出す。」そう、そんな書き出しで始まるこの作品は紛れもなく夏なのである。しかしこの作品はキャンプにバーベキュー、アイスクリームに怪談その他にも夏を彩る装飾はたくさん出てくるというのに僕の知るどの夏とも類似していないのである。いや、きっとそれはこの作品をミステリ小説たらしめる事件に重きをおき登場する天才達や舞台となる窓のない研究所ばかりを重視した僕のいくつもの主観が重なり出た結論なのだろう。しかし僕はその根拠もなく感じた夏に大きく影響を受けたのである。

この作品と初めて出会ったのは中学生の頃であった。「理系ミステリの金字塔」というキャッチコピーと特徴的な題名に惹かれ手にしたという特にめずらしくもない出会いであったが、その内容は衝撃的なものであった。

前にも述べたようにこの作品はミステリである。天才、真賀田四季の住む孤島の研究所で一般に密室殺人と呼ばれる事件が起こり、その謎に大学助教授、犀川創平と学生、西之園萌絵が挑む話なのであるがこの作品の魅力は不可能とも言えるような状況を作り出すトリックや両手両足を切断されウエディング・ドレスをまとった特徴的な死体、残された謎のメッセージなど事件に関係するものばかりではない。事件が起きてもすぐ冷静さをとり戻しそれぞれの役割を果たそうとしたり状況を分析しようとする理系をよく表現したキャラクターの性格。そして「自然を見て美しいなと思うこと自体が不自然なんだよね。汚れた生活をしている証拠だ。」「何故、私たちの意識は、意識を失うことを望むのでしょうか？意識がなくなることが、正常だからではないですか？」などの独特なセリフなどもそうである。

つまり、僕はこの作品に表現やトリックなどミステリ小説としての魅力だけでなく、登場人物達の個性にも強い魅力を感じたのだ。もちろん作品と登場人物達の思想を全て鵜呑みにはできないが、僕はこの作品を彼女達のセリフを生き方をとても綺麗だと思った。なぜなら真賀田四季をはじめこの本の登場人物達の多くは

考えることができるからである。テストで点が取れるなどの陳腐な思考力ではない。体裁、安定、常識など大人と呼ばれる状態に近づくほどに増えていく縛りの中でも彼女達は風見鶏にはならず自分で道を見つけていっている。それだけの能力があるのだ。とても憧れた。そしてその憧れこそが僕がこの作品に影響を受けた一番の理由なのだろう。

そして今日、何回目になるか僕はまたこの本を開いた。今はもうこの作品は憧れではなく目標である。自分にそれ程の能力があるかはわからない。しかし才能を理由に自分に蓋をしたくはない。彼女らの知る景色を一部でも見てみたい。決められた未来がないのならより自由に生きてみたい。そのほうがおもしろそうだから。呆れるほど短絡的である。しかし、そんな自分を僕は気に入っている。だから僕はこの目標を持ち続け、少しでも追い付いてみせたいと思っている。

この作品に影響を受けたのは目標ばかりではない。僕には小学生の頃からの夢がある。ロボット開発技術者だ。しかし僕は怠惰だった。何を学んでいくべきか、何を学びたいのか具体的なことは先のばしにするが理想は日に日に薄れていく。しかし捨てる気にもなれない。そうして中学生の頃には形骸化した夢にすがりつくような形になっていた。そんな毎日が楽しいはずもなく中学校の担任の先生にも何度か「もっと笑ったほうが良いよ。」と言われるほどおもしろみを感じなくなっていた。

そんな中彼女らの自由な生き方を見て自分の夢への固執がいかに自分の可能性を狭めているかを知った。そして僕はまた自分の道を考えていきたいと思ったのだ。意識転換をしたからすぐに夢が決まるわけではない。コンピューターや機械の分野が好きであることには変わらないし自分に何ができるかもわからない。だから僕は工業高等専門学校に進学した。ここには工学に関するたくさんの専門書がある。多くを知る先生方がおられる。この環境で僕はたくさんの事を学び考えしっかりとした答えとそれに向かう力をつけていきたいと思っている。

最後に最初「すべてが F になる」を夏と表現したのは「夏は成長の季節」という文句と関連し先に述べたこの作品による僕の変化が成長であると信じているからである。そして今年もまた、夏が終わろうとしてい

る。僕はこの夏、どう変わっただろうか、これから秋は僕にとってどんな季節になるのだろうか。いや、僕は今年、どんな秋を作り出せるのだろうか。

優秀賞

「ぼくは勉強ができない」を読んで

物質工学科 1年 濱田 美生

私はどちらかという国語が苦手だ。今年も夏休みの宿題として読書感想文を書かなければならない。今年は何を読もうかと困っていた私に友人が勧めてくれたのがこの本だった。「ぼくは勉強ができない」最初から結論だけを述べた秀逸なタイトルを見た時、とても魅力を感じた。世の中にある本の中には中身を見なければ詳しいことが分からないものがたくさんあるが、このように結論を述べてしまっているうえでストーリーがどう展開していくのかを想像すると読んでみたいという気持ちが高まり、興味をそそった。

主人公の秀美は、母子家庭で育ったため、周囲の人からいつも「大変だね」と言われ腑に落ちないところがあった。それに対して秀美は、「母親が一人で親と子どもの面倒を見ているというだけで、僕は不幸な人種として見つめられていたのだ。父親がいない子どもは不幸になるに決まっているというのは、人々が何かを考える時の基盤のひとつにしかすぎない。そこに丸印、ぼつ印をつけるのは間違っていると僕は思うのだ。父親がいないという事実、白黒はつけられないし、そぐわない。何故なら、それは、ただの絶対でしかないからだ。」とはっきり自分の意志を伝えていた。その言葉は、私にとって、とても印象深いものである。なぜなら、他人の人生の幸不幸をその人の家庭環境で判断するのは、偏見に過ぎず、とても勝手なことだと私は思うからだ。世の中が決めた当たり前に捕らわれてすべての人がそうだと考えるのは個人の意見をまるで尊重していない。私が自分の幸不幸を感じる時は直感だ。嬉しいと思ったら嬉しいし、嫌だと思ったら嫌だ。それなりに理由はあるのだが、他人の意見に流されて私は不幸なのだと思いますことは自分に嘘をついて自分で自分を苦しめていることになる。根拠のない悩みは考えずに事実が明らかになったとき、またそれにつ

いて考える時間を設ければいいと思う。そこから自分を変えていくことができたなら良いのではないだろうか。

主人公の発言の中で印象に残っている言葉がもう一つある。「すべてに丸をつけよ。とりあえずは、そこから始めるのだ。そこからやがて生まれていくたくさんのぼつをぼくはゆっくりと選び取っていくのだ。」この言葉には、自分の人生におけるすべてのあらゆることを受け入れるという意味が込められているのではないかと感じた。自分の価値観と他人の価値観はもちろん違う。悪い成績を取ったり、友人関係や恋がうまくいかなかったりなど自分にとってマイナスなことが起こっただけで人生が終わるというのは今考えれば誰が決めた価値観なのだろうか。この人とは合わないと思って、自分だけの価値観に捕らわれてしまうと、相手がこの人は話を聞いてくれない人なのだと考えてしまい、人間関係が円滑でなくなってしまう。かといって、他人の価値観だけで物事を判断すると自分を満足させるのがむずかしくなってしまう。人はそれぞれ違うという事実をきちんと頭に入れ、相手を理解してあげることで心をゆるし、次第に仲良くなっていくのだと思う。実際、私が今仲良くしている友人たちとの付き合いの過程を思い返してみても、その人それぞれに合った対応をしていくことでここまでお互いを知り、分かり合えるようになったのだと思うことができる。

最近、仲のいい友人たちとの間で些細な悩みを抱えていた私にこの本は共感とたくさんの課題を与えてくれた。この本を読んだことで友人、家族に対する様々な大切なことに気付くことができたし、自分を支えてくれている人たちを大切にしようと思う気持ちがより一層深まった。この本を勧めてくれた友人にも感謝を伝えたい。

この本は、新しく始まった私の高校生活を楽しく意味のあるものに導いてくれるための人生の教科書となったと思う。

優秀賞

「差別をしよう!」を読んで

物質工学科 1年 村尾 祐実

私がこの本を読み終えて思ったことは、差別をすることは別に悪いことではないんだなということだ。

この本を読むまで、差別をするということは、他人を自分より下に見たり自分と違うところをばかにしたりするなどの、他人を傷つけたり不快にさせたりする行為であり、やってはいけないことなのだろうと思っていた。だが、この本の著者は、「『差別』と言うとマイナスイメージばかりだが、決してそんなことはなく、上手い使い方をすれば自分が『自信』を培うためにすごく役立つのだ。」と書いている。

私たちは、人生の中で必ず差別をしてしまうものである。私も差別をしたことがある。他人と自分を比べて、「この人はこんなこともできないんだ」と他人を下に見ることはよくあった。仲の良い友達もそうではない人も自分と見比べて、心の中で笑っていたこともある。

著者は、「人は皆差別をして優越感に浸ったり劣等感を感じたり、自分の存在を知る。それらを全部否定して無理やり平等にしちゃったら自分の存在を確かめられず、常に不安に苛まれストレスが溜まるだろう。」と書いている。これには納得した。私たちは自分と他人を比べなければ、何がどのくらいできるかなど自分を知ることができない。自分のことを知らないと、自分に自信が持てないから不安になる。他人を下に見ることは悪いこと、やってはいけないことだと私の中にはすりこまれているが、他人と自分を比べて自信をもっていくこともすごく大事なことなんだと知った。

だがここで一つ疑問が残った。「差別された人の気持ちは無視するのか?」ということである。他人を差別して自信を持ってほしいという著者の気持ちは分かるが、やはり差別をされていい気持ちになる人は少ないだろう。そのような人の気持ちを無視して、自分に自信を持つことだけを一番に差別をしていくことは自分勝手なのではないか。

この疑問を解消する答えも著者は書いていた。「他人が自分より劣っている部分があるからといって、その存在そのものを否定しては絶対にいけない。」という

ことである。私は「差別」を、人を全否定している前提で考えていたのだ。自分自身の存在が全否定されたら嫌だろう。私も嫌だ。しかし、差別する人の存在を認めながら「自分」の存在を知って自信を持つために差別をするのなら、相手は傷つかないだろうと私は思った。

著者は障がい者であるが、差別を認め、差別をしようとして訴えていることが私はすごいと思う。障がい者の人はみんな、「かわいそう」とか「大変そう」だと思われるのが嫌だから「平等」にしてほしいと訴えていて、それが、世の中で「みんな平等になるべき」という風潮を生んだのだろう。その風潮の中でも著者は、「障害者と比べたら自分たちは恵まれている。だから頑張ろう!」と書いてほしい。」とまで書いている。障がい者でありながらここまで書くことができるのは著者しかいないだろう。

この世の中、みんなが平等でいられるのは難しいと思う。誰だってできること、できないことがあるし、容姿だっていろんな人がいる。そういうものがすべて平等になったら、もうクローンである。みんなが同じ能力なら、互いに差別することができないからそれ以上上を目指すことができず、自信が持てなくなる。みんな違うからこそ、差別したり競い合ったりして自分を高めたりすることができる。自分より劣っている人を見つけたら自信を持てるし、自分より優れている人を見つけたら、「頑張ろう」と努力をしてできるようにだっただろう。

私は、世の中を平等にするのではなく、人と自分の違うところを認め合えるようにすることが一番大事だと思う。これも難しいが、これが出来たらきっとお互いが自信を持っていて輝ける人間になれると思う。



表彰式記念撮影（校長室）

2016年度 校内読書感想文コンクール表彰作品【読書感想文の部】

賞	学科・学年・氏名			作品名
最優秀賞	D	1	陶 山 一 宇	「すべてがFになる」を読んで
優 秀 賞	C	1	濱 田 美 生	「ぼくは勉強ができない」を読んで
〃	C	1	村 尾 祐 実	「差別をしよう」を読んで
佳 作	M	1	小 谷 裕	一生折れない自信のつくり方
〃	M	1	佐々木 優 那	自分自身を見つめて
〃	A	1	井 料 恵 莉 菜	世界から猫が消えたなら
〃	E	2	竹 本 啓 悟	スクラップ・アンド・ビルド
〃	E	2	龍 田 千 春	「時間とは何か」を読んで
〃	E	2	種 香 夏	千利休という人間

校内読書感想文コンクール概要と総評

図書館長 熊谷 昌彦

2016年度読書感想文コンクールは212編の応募があり、第一次通過者は30編、その中で9編が入賞となった。最優秀賞1編、優秀賞2編、佳作6編である。昨年度は207編の応募があったが、5編の増加であった。

最優秀賞の電子制御工学科1年の陶山一宇さんの「『すべてがFになる』を読んで」は、孤島における天才真賀田四季のいる研究所での密室殺人事件を解いた作品である。著者は中学生の頃「理系ミステリーの金字塔」というキャッチコピーと題名にひかれた。ストーリーばかりでなく、登場人物が理系のキャラクターであり、「自然をみて美しいなって思うこと自体が不自然なんだよね」といった表現に惹かれる。冷静に分析的に物語る彼らのセリフと生き方をきれいだと思った。登場する人物のキャラクターや見る景色への憧憬を自分の生き方の糧として描いている点を評価した。

優秀賞の物質工学科1年の濱田美生さんの「『ぼくは勉強ができない』を読んで」は、友人がすすめてくれた

本であるが、最初から結論だけを述べたタイトルに魅力を感じたとのこと。主人公の秀美は母子家庭で育ったため、周囲の人から「大変だね」といわれるが、不幸な人種と決めつけられていることに違和感を感じている。他人の価値観だけで物事を判断することやされることの危うさを問うている。相手を理解することは各自が認め合うことに至るまでのプロセスを描いている点を評価した。

優秀賞の物質工学科1年の村尾祐実さんの「『差別をしよう!』を読んで」の著者は障がい者である。「大変そう」と思われるのが嫌で「平等」に扱われたいのだ。彼の「人は皆差別をして優越感に浸ったり劣等感を感じたりして、自分の存在を知る。それらを全部否定して無理やり平等にしちゃったら自分の存在を確かめられず、常に不幸に苛まれストレスがたまるだろう」の文章に共感する。一般的な平等が良くて差別が悪いとの常識を疑うことの大切さを描いている点を評価した。佳作の6編の作品も自分の今までの経験を問い直す契機として読書をとらえている。今後、学生がみずから本を手にする機会が増え、読書を通じて様々な世界を知ることが期待している。

鳥取県立図書館視察・研修報告

図書館運営委員(教養教育科) 松崎 安子

平成28年7月9日(土)、学生図書委員の有志25名は鳥取県立図書館を訪れました。この視察・研修は、「公共図書館の施設や設備、組織や機能を実地に学ぶことで、教養を身につけるとともに、図書館活動の意義について認識を深めることを目的とし」(「学生図書委員研修実施要項」趣旨より抜粋)しており、今年で3回目の実施となりました。

県立図書館ではまず司書職員から図書館の概略を聞き、つぎに館内見学に移りました。開架はもちろん、バックヤードも惜しみなく見せて頂いたことで、図書の受け入れや貸し出し作業が滞りなく行なわれたり、利用者からの様々なリクエストに対しの確に答えられたりしているのは何故なのか、という疑問が解けたようです。

また、地下書庫に収蔵された100万冊数もの書籍や資料に圧倒され、かつそれらを守る万全な防火設備に感心しました。視察の最後には、委員全員が各自読みたい本を選書し、それらを後日、高専図書館へと送ってもらうことになりました。

この企画はいまだ実施回数が少なく、学生図書委員にしか知られていないひっそりとしたものですが、図書館という施設が思っていた以上に「すごい」ところであると多くの高専生に知って欲しく、今年度は広報ポスターを作成し教室に掲示してもらいました。それをネタに身近な図書委員へ“県立図書館、どうだった?”と聞いてみて下さい。熱い使命感をもって応じてくれるに違いありません。



視察・研修に参加した学生の感想あれこれ

- 書籍が手に取りやすいように配架してあった。

本校でもテーマを決めて配架するなどして、多くの良い本を知ってもらえる機会を作っていきたい。(3E 小野)

- 個人にとっては高価で買えない本も、図書館が無料で貸してくれることを、他の学生にもっと知ってほしい。(2E 種)

- 高専図書館に収蔵されていない本でも、県立図書館で所蔵していれば「お取寄せ」できると知れた。(3A 岡田)

- 県立図書館には多彩なジャンルの図書がある。ぜひ利用しよう。(4D 船津)

- 図書館について理解し、図書館の便利さを知った。このことを学生図書委員として広報したい。

(1D 陶山)



学生のリクエストにより購入した図書一覧（2016年度分）

No.	本の題名	著者等	No.	本の題名	著者等
1	少女	湊 かなえ	43	よろづ春夏秋冬	長野 まゆみ
2	ボルハルト・ショアー現代有機化学(第6版)[上]	ボルハルト	44	一步を越える勇氣	栗城史多
3	ボルハルト・ショアー現代有機化学(第6版)[下]	ボルハルト	45	壊れた地球儀の直し方	青山 繁晴
4	ボルハルト・ショアー現代有機化学 問題の解き方(第6版)	ショアー	46	平成紀	青山 繁晴
5	大学編入のための数学問題集	碓氷 久	47	ザ・万歩計	万城目 学
6	弓と禪	オイゲン・ヘリゲル	48	ザ・万字固め	万城目 学
7	つまをめとらば	青山 文平	49	ザ・万遊記	万城目 学
8	TOEICテスト公式問題集 新形式問題対応編	Educational Testing Service	50	レイン 1~12	吉野 匠
9	空想科学読本17	柳田 理科雄	51	西洋名画の読み方5 印象派	ジェームズ・H・ルービン
10	幹事のアッコちゃん	柚木 麻子	52	宇宙エレベーターの物理学	佐藤 実
11	君の臓臓をたべたい	住野 よる	53	新TOEICテスト900点突破20日間特訓プログラム	小山 克明
12	世界の果てのこどもたち	中脇 初枝	54	TOEICテストハイパー模試 新形式問題対応 5訂版	旺文社(編集)
13	永い言い訳	西川 美和	55	編入数学過去問特訓一入試問題による徹底演習	桜井 基晴
14	朝が来る	辻村 深月	56	悠悠おもちゃライフ	森 博嗣
15	王とサーカス	米澤 穂信	57	美女と竹林	森見 登美彦
16	戦場のコックたち	深緑 野分	58	TOEIC(R)テスト 非公式問題集 至高の400問	ヒロ 前田
17	書店主フィクラーのものがたり	ガブリエル・ゼヴィン	59	ネドノカンド・脱力デザイン論	佐藤 オオキ
18	紙の動物園	ケン・リュウ	60	タンパク質構造とトポロジー — パーシステントホモロジー群入門 — (シリーズ・現象を解明する数学)	平岡 裕章
19	国を救った数学少女	ヨナス ヨナソン	61	大学編入のための数学問題集	碓氷 久
20	カエルの楽園	百田尚樹	62	東京會館とわたし(上)旧館	辻村深月
21	天才	石原 慎太郎	63	東京會館とわたし(下)新館	辻村深月
22	2016年度版 ニュース検定公式問題集 1・2・準2級	日本ニュース時事能力 検定協会(監修)	64	蜜蜂と遠雷	恩田 陸
23	大学編入のための数学問題集	碓氷 久	65	毎日は笑わない工学博士たち — I Say Essay Everyday	森 博嗣
24	愚者のエンドロール	米澤 穂信	66	リーチ先生	原田 マハ
25	ふたりの距離の概算	米澤 穂信	67	恋のゴンドラ	東野 圭吾
26	氷菓	米澤 穂信	68	神様のケーキを頬ばるまで	彩瀬 まる
27	倒錯のロンド	折原 一	69	ぐるぐる問答: 森見登美彦氏対談集	森見 登美彦
28	バベル九朔	万城目 学	70	夜行	森見 登美彦
29	恋文の技術	森見 登美彦	71	メカ屋のための脳科学入門 — 脳をリバースエンジニアリングする	高橋 宏知
30	ディファレンス・エンジン(上)	ウィリアム ギブスン	72	脳はここまで解明された — 内なる宇宙の神秘に挑む	合原 一幸
31	ディファレンス・エンジン(下)	ウィリアム ギブスン	73	タンパク質の立体構造入門 — 基礎から構造バイオインフォマティクスへ	藤 博幸
32	倒れるときは前のめり	有川 浩	74	青の数学	王城 夕紀
33	光媒の花	道尾 秀介	75	筋トレが最強のソリューションである マッチョ社長が教える究極の悩み解決法	Testosterone
34	海に見える理髪店	荻原 浩	76	スバラシク実力がつくと評判の微分積分キャンパス・ゼミ — 大学の数学がこんなに分かる! 単位なんて楽に取れる!	馬場 敬之
35	天下人の茶	伊東 潤	77	小説 君の名は。	新海 誠
36	家康、江戸を建てる	門井慶喜			
37	暗幕のゲルニカ	原田 マハ			
38	ボイズドクター・ホーリーマザー	湊 かなえ			
39	真実の10メートル手前	米澤 穂信			
40	コンビニ人間	村田 沙耶香			
41	ジニのパズル	崔 実			
42	「空気」の研究	山本 七平			

※著者が複数の場合は筆頭者のみ記載。翻訳者は省略。

「世界に広げる『おもてなし』の心とスキル」

～エンジニアに必要な国際的視野と教養～ オフィス・エンライティア 代表 水谷 智扶美

今日の講演は、「世界に広げる『おもてなし』の心とスキル」、～エンジニアに必要な国際的な視野と教養～ということで進めてまいります。

私は、この米子高専の工業化学科5期生です。国連機関で働いたことや、夫の赴任に伴ってヨーロッパに住んだ経験などをとくに、現在は国際マナー、ストレスケアの講師をしています。

国連の研究機関のひとつである国連大学で、私はエグゼクティブ・セクレタリー、上級秘書として約11年間働きました。約30カ国から集まった研究者や事務スタッフと毎日一緒に仕事をし、会議などでお迎えした方々は、約80カ国にのぼります。このような世界中の人達と一緒に働く環境のなかで気が付いたのは、人間はみんな同じだということです。もちろん人種や宗教、育った場所や環境、受けた教育などによって、人間の価値観や行動は違います。しかし、人間の基本は同じです。同じ人間として、お互いに敬意を持って接する事が大切だという事を、身をもって学んだのです。

今日お話しするのは、エンジニアになるみなさん、他の道をめざす学生のみなさんにも、ぜひこれだけは身に付けて意識していただきたいという内容です。これから社会人として必ず必要となるもので、みなさんの価値を大いに高めてくれるものです。それは、「英語」、「マナー」、「広い視野と教養」、そして「おもてなしの心」の4つです。

まず、最初の英語ですが、日本人にとっては「英語が苦手でも当たり前」なことです。日本人は英語が下手なのではなく、英語で話して伝えるという機会が少ないのです。「日本人は英語で損をしている、もったいない」といわれます。しかし、外国人に以心伝心はありません。自分の言いたいことを伝えないと、最悪の場合はバカにされることもあります。英語が苦手でも、できる限りの手段を使って、伝えたい事をアピールしてみてください。

具体的には、まず笑顔でリラックスして、アイコンタクトをしっかりとりまわります。重要な単語を並べ、できるだけシンプルな文章を使います。更にメモを書いたりジェスチャーをしたり、スマートフォンを使うのも良いでしょう。とにかく、伝えることを心がけて下さい。そうすれば、あなたの熱意はきっと伝わります。

次は「マナー」です。マナーの基本は、お互いが気持ち良く過ごすための心遣いです。良いマナーは一生の財産となります。なぜなら、きちんとしたマナーを身

に付ければ、ひとかどの人物として扱われ、信頼されるからです。マナーの三大ポイントは「姿勢」、「挨拶」、「清潔感」です。姿勢よく立って、挨拶ができて、握手も笑顔で堂々とできる。相手の話を誠実に聞いて、衣服は清潔で立ち居振る舞いがちゃんとしている。そうすると、この人だったら一緒に仕事ができるという信頼感が湧くはずですよ。

ところでマナーの中で、簡単そうに見えて実はなかなか正しくできないのが、握手です。せっかくの機会ですから、これからみなさん一緒にやってみましょう。(正しい握手の実技)

三番目に、「視野の広さと教養」について。エンジニアに、なぜ国際的視野と教養が不可欠なのでしょう？ 日本の製品は、世界中の人達が使っています。そうすると世界中のニーズに合わせた商品開発が必要となります。それには、外国に関する知識や広い視野が必要な訳です。ですからみなさんには、海外に目を向けて視野を広げていただきたいと思います。そのためには、自ら学ぶこと、読書することが重要です。特に海外メディアにアクセスすることによって、海外の情報がリアルタイムで手に入ります。また、教養を高めるには強い好奇心を持ち、違う分野の人々と交流することも大切です。そして、芸術・美術品など本物に接していただきたいと思います。本物、良質のものと接する事で、教養は更に深まります。

最後の「おもてなしの心」とは、相手の立場に立つこと、そして相手に対する気遣いのことです。今までお話ししたことに加えて、ぜひともみなさんに意識していただきたいのは、日本人らしい心遣い、他人に対する思いやりの「おもてなしの心」です。私の夢は、この「おもてなしの心」を、これから活躍されるみなさんから世界に広めていただくことです。

「一期一会」という言葉があります。これは、「あなたと出会っているこの時は、一度きりのものです。このひとときを大切に、今できる最高のおもてなしをしましょう」というお茶の心です。先入観や偏見を持たず、はじめて会う人でも毎日会う人でも、おもてなしの心で接していただけたら、人間関係もきっと良くなるはずです。今日お話しした「英語」、「マナー」、「広い視野と教養」、「おもてなしの心」をもって、みなさんがこれから更に広い世界でご活躍されることをお祈りします。みなさんのことを、心から応援しています。

平成28年度高専数学教育シンポジウム —学生の数学研究と異分野交流— についての報告

日時:平成28年10月1日(土)13:00~18:00
場所:米子コンベンションセンター第6会議室
世話人:堀畑佳宏(米子高専)、松田修(津山高専)
共催:米子高専リベラルアーツセンター

教養教育科 講師 堀畑 佳宏

高専数学教育シンポジウムは、数校の高専生による数学研究の発表の場として、年に1回開催され、今回で5回目です。米子高専からは毎回、数名の学生が参加・発表しています。今回は2度目の米子開催となり、本校リベラルアーツセンターにも協力して頂きました。今回の参加校は本校以外に、津山高専、福井高専、佐世保高専で、参加者は23名でした。

発表件数は全部で5件あり、本校数学同好会からは2件の発表を行いました。本シンポジウムでは学生が発表ならびに質問しやすい環境づくりに力を入れているため、今回も、学生はのびのびと発表、質疑、応答し、学生同士で活発な議論をしていました。また今回は、異分野講演として「他者からの評価とアイデンティティのゆらぎ」という発表が行われました。こちらも数学を研究してきた学生達

にとっては斬新だったようで、自分の人生と照らし合わせた質疑応答もなされていました。

終始和やかに会が進み、発表終了後の情報交換会では教員、学生、所属の垣根を越え、数学や人生についてざっくばらんに意見交換を行えました。そんな中、普段話すのが少々苦手な学生も、数学を通じ他校の学生と笑顔で話している姿を見られたことは、世話人として、また教員として望外の喜びでした。

このような素晴らしい会を開催させて頂く要因の土台となった学生達の情熱に感謝したいと思います。そして、学生の数学への興味を深めるため、さらに、生きる力を大きくするきっかけの1つとするためにも、本シンポジウムをこれからも開催し続けていきたいと思っています。



高専数学教育シンポジウムでの発表の感想

1, 2年生の時はシンポジウムの発表内容が当時の自分からしたら難しすぎてほとんど聞き逃して終わっていましたが、3年になって完全には理解ができなくても少し話についていけるようになり少しですが数学のすごさを実感できました。そして私の発表は45分と自分の発表としては1番長く、45分話し続ける大変さや、多くの質問や意見に的確に答える難しさなど、今回は一段と大変でした。しかし、プレゼンの改善やこうすればもっと多くの人に発表を理解してもらえる方法など今後のプレゼンで役立つ事が分かったのでとてもいい経験になりました。

電子制御工学科 3年 小松 遼太

今回の高専数学教育シンポジウムを通して、聞き手側に自分たちの研究内容を伝えることの難しさを実感しました。発表中に想定外の質問をされ、それに対して相手を納得させられるような返答が出来ず悔しかったです。しかし、新たな課題が見つかるきっかけとなったので今回の発表で受けた指摘を今後の研究に生かしていきたいと思っています。また、交流会では他高専の学生や先生方と意見交換をしました。他高専の人と交流する機会は減多にないので貴重な体験となりました。これからも研究を発表する機会があったら積極的に参加していきたいです。

物質工学科 2年 島津 瑠衣

短期留学・インターンシップ報告会について

教養教育科 助教 鈴木 章子

米子高専には留学、インターンシップ、学会発表などで海外へ行く学生が毎年多くいます。それらの体験から得た経験を広く学生、保護者のみなさま、地域のみなさま、教職員で共有し、次回参加する学生の後押しをするため、平成28年度の高専祭1日目(11月3日木曜日)に上記の報告会を行いました。当日は、韓国派遣研修(海外研修旅行・海外インターンシップ)、オーストラリア研修、Intel ISEF(国際学生科学技術フェア)2016、トビタテ!留学JAPAN(高校生コース)、鳥取県・バーモント州青少年交流事業に参加した学生、計8名によるプレゼンテーションが行われました。写真や実際に発表で使用したポスター等を用いながら、現地での体験や認識が変化したことなどを紹介しました。一般の方々にもご来場いただき、質疑応答では活発なやり取りが行われました。これらと同様の研修は2017年度も実施される予定です。管理棟 2F 学生係の掲示板や英語の授業でのお知らせに注意してみてください。慣れ親しんだ場所を離れて客観的に見てみることでわかることもたくさんありますし、自分自身について新たな発見をすることもあられるでしょう。ぜひ高専在学中に一步踏み出してみてください。

2016年度 第3回、第4回〈ビブリオバトル〉結果報告

2016年度にはビブリオバトルを2回開催しました。昨年度からの通算第3回目は2016年7月12日(火曜日)、第4回目は2016年12月19日(月)の放課後です。両方とも学生図書委員が中心となって企画をたて実行できたものです。

第3回 ビブリオバトル選考結果

- ①電子制御工学科 4年 武中 幹人 「春季限定いちごタルト事件」米澤穂信著(佳作)
- ②物質工学科 1年 平井 壘 「博士の愛した数式」小川洋子著(佳作)
- ③電気情報工学科 2年 種 香夏 「ころも」夏目漱石著(佳作)
- ④電子制御工学科 3年 高津 こなつ 「学生時代にやらずにいい20のこと」朝井リョウ著(チャンプ本)
- ⑤建築学科 3年 岡田 仁子 「源氏物語」紫式部著、瀬戸内寂聴訳(準チャンプ本)



第4回 ビブリオバトル選考結果

- ①研究生 寺本 誠司 「爆笑問題ニッポンの教養—脳を創る男」太田光、田中裕二、合原一幸著
- ②電気情報工学科 2年 北川 喜宏 「母子像」久生十蘭著
- ③機械工学科 3年 山崎 雄矢 「真実の10メートル手前」米澤穂信著
- ④電気情報工学科 4年 中村 将大 「筋トレが最強のソリューションである:マッチョ社長が教える究極の悩み解決法」Testosterone著(準チャンプ本)
- ⑤電気情報工学科 4年 西尾 有輝 「青の数学」玉城夕紀著(チャンプ本)



第3回ビブリオバトルでは氷室校長先生に読書の大切さや印象に残った本のご紹介をいただき、第4回ビブリオバトルでは教養教育科堀畑先生にニーチェの本をご紹介いただきました。また、国語の渡邊先生には各発表者それぞれにコメントを、松崎先生には感想とご意見をいただきました。学生の皆さんにとってプレゼンテーションやコミュニケーション能力が試されるとともに、ビブリオバトルが参加者の関心の共有の場であり意見交換の場となっていることにあらためて驚かされました。今後の発展を期待しています。なお、ビブリオバトルの公式ホームページは、<http://www.bibliobattle.jp/>です。

読書会を開催して 米子高専読書会 主宰(元鳥取県教育長) 中永 廣樹

平成27年度、28年度の2年間、新しくなった図書館の交流プラザで計10回、学生諸君と一緒に読書会を開催した。ねらいは、学生諸君が自主的に読書を楽しみながら、現代社会に生きる上で必要な幅広い教養(リベラルアーツ的なもの)を身に付けようというものであった。

扱った主な本は『本を編む』『博士の愛した数式』『老人と海』『車輪の下』などの古今東西の小説や『フィンランド 豊かさのメソッド』『地方消滅』『大人の教養』など今日的な問題を扱ったノンフィクションである。

読書会では、教職員も加わり、高い専門性を有する理系としての米子工業高等専門学校の学生諸君が、人の心、人間の生き方、社会のあり方などについていろいろな観点から自由に語り合い、お互いの意見に耳を傾け、そして文系的な世界を味わった。

参加してくれた学生は各回平均して4~5名にとどまったが、自らの読書体験やお薦めの本を若い人らしい感性で紹介してくれ、意義ある読書会となった。

来年度は主宰を熊谷先生(予定)に代わっていただく。この読書会が米子高専の特色ある活動としてますます楽しい、意義あるものになってほしい。読書を楽しもう! 広い教養を身につけよう!

2016年度 文化セミナー報告

2016年度の米子高専文化セミナーは、第1回 5月22日(日)、第2回 6月26日(日)、第3回 10月23日(日)、第4回 11月27日(日)に行われました。会場は第1回、3回、4回が中海テレビ放送センタービル、第2回が米子高専図書館2階アカデミックシアターでした。第1回は教養教育科青砥正彦先生による「日本語と数字と英語」、第2回は教養教育科渡邊健先生による「門脇重綾と和歌」、第3回は電子制御工学科原田篤先生による「ロボットと人工知能」、第4回は機械工学科の藤田剛先生による「縁の下の力持ち 工作機械によるものづくり」でした。各講師の先生方は、パワーポイントやレジュメ等や独自の資料を用いて、懇切丁寧に説明をいただいたことが印象的でした。参加者からの質問が相次ぐ場面もありました。文化セミナーを通じて、米子高専は地域に貢献していると考えます。来年度も是非ご来場ください。

